



AFCC ジャパンナイトにおいて新刊日英バイリンガル児童絵本発表と 翻訳を含むアジア児童絵本賞(賞金 3 万シンガポールドル)の立ち上げ

新刊絵本及び児童絵本賞は、異文化コラボレーションの促進及びより多くのアジア児童が文学作品と触れ合う機会を提供
ゲンティン・シンガポールが協賛

シンガポール(2016年5月26日)＝本日、アジア児童コンテンツ・フェスティバル(以下、「AFCC」という)ジャパンナイト
の場で、シンガポール国立図書開発評議会(以下、「NBDCS」という)とゲンティン・シンガポールは共同で、新刊日英バイ
リンガル児童絵本二冊の発表とゲンティン・シンガポール・アジア児童図書賞(以下、「ACBA」という)の立ち上げを行った。日
本・シンガポール外交関係樹立 50 周年記念行事であるジャパンナイトは、今回のテーマ国である日本の児童コンテン
ツにスポットを当てた活動のクライマックスイベント。

NBDCS のラス・ラマチャンドラン事務局長は、「この新刊日英バイリンガル絵本と ACBA は、シンガポール及びアジア全
体における文筆、読書、口承文学、出版を促進させるための NBDCS の更なる努力の一環。この様な我々の活動の重要性
に賛同し活動支援を頂いたゲンティン・シンガポールを初めとするパートナーに感謝の意を表します。我々は、この様な新た
な試みがアジアの新進そして既に名声のあるコンテンツ・クリエイターを刺激し、アジア人固有の見聞を紹介する作品をより
多く創出して欲しいと思っています」と話した。

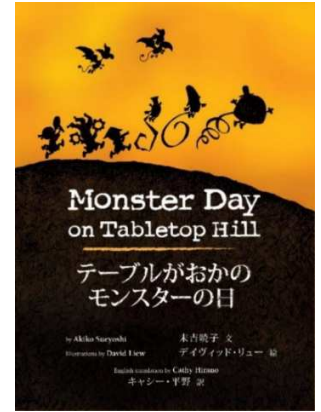
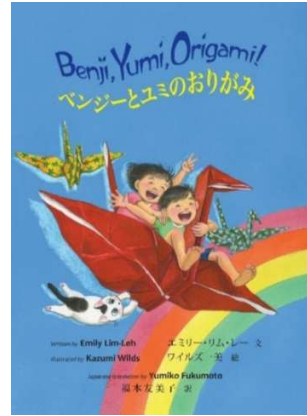
ゲンティン・シンガポールのタン・ヒーテック代表取締役社長は、「ゲンティン・シンガポールのアジアにおける教育と人材開
発への取り組みの一環として AFCC2016 のスペシャルパートナーであることを光栄に思っております。子供たちの読書へ
の興味を醸成し、アジアの文才を育む機会を提供できることを嬉しく思っております。アジア初の児童図書賞であるゲンティ
ン・シンガポール・AFCC アジア児童図書賞の協賛会社として、アジアの作家、イラストレーター、翻訳者育成のため、先頭
に立って活動し、児童書とコンテンツの創出そしてそれらの認識が深めるように後押しして参ります。我々が協賛会社として参
画した新刊日英バイリンガル絵本によって、これから先、更なる異文化交流の道筋が付き、アジアにおける絵本に対する認
識が深まると思っております」と話した。

新刊日英バイリンガル児童絵本: 日本とシンガポール両国の作家、イラストレーター、翻訳者のコラボレーション

ゲンティン・シンガポールが協賛する 2 冊の日英バイリンガル絵本「ベンジーとユミのおりがみ」と「テーブルがおかのモンスターの日」は、日本とシンガポールの作家、イラストレーター、翻訳者による 9~10ヶ月間に及ぶ史上初の共同作業の賜物。両国の文学分野でのコラボレーションがより強固なものになった。

この新たに公開された文学作品では、楽しい修辞表現を通して友情の意味の追求が描かれている。「ベンジーとユミのおりがみ」では、子供のベンジーが隣に引越してきたユミから、おりがみの折り方をたくさん教えてもらう。「テーブルがおかのモンスターの日」では、フォーキーの好奇心のお陰でたくさんの新しい友達ができる。(絵本に関する詳細は、[添付資料 A](#)を参照)

【表紙イメージ】



「ベンジーとユミのおりがみ」「テーブルがおかのモンスターの日」

アジアの作家、イラストレーター、翻訳者を表彰する ACBA

アジアをテーマとした児童文学やコンテンツを称える場である AFCC の場で、NBDCS とゲンティン・シンガポールは共同で、ACBA の立ち上げを行いました。また、初受賞者の表彰は、AFCC2017 で行われます。同賞は、アジア 50 ヶ国を対象に、アジア人作家による、アジアの出版社によって発刊された、翻訳を含む最優秀絵本を表彰することを目的とします。最優秀作品には、作家、イラストレーター、翻訳者のそれぞれに対し 1 万シンガポールドルずつ、つまり合計 3 万シンガポールドルの賞金が授与されます。

この新たに立ち上げられたアジア最大の児童図書賞は、発刊済み児童書を対象とした業界唯一の表彰の場。また、作家、イラストレーター、翻訳者を同等に表彰する初めての試みであり、各専門家同士のコラボレーションを更に促進する意味がある。また翻訳に重点を置く ACBA によって、アジアの児童図書がもっと多くの言語に翻訳、出版されることを促し、それによってそれらの児童図書がより多くのアジアの国々そして世界に届けばという願いが込められている。(同賞に関する詳細は、[添付資料 B](#)を参照)

他の日本の児童コンテンツを称えるテーマ国関連活動

“日本の絵本の歴史:「絵因果経」から「14 ひきのシリーズ」まで”展示会

日本・シンガポール外交関係樹立 50 周年を記念して、NBDCS とちひろ美術館は共同で、“日本の絵本の歴史:「絵因果経」から「14 ひきのシリーズ」まで”展示会を企画。この展示会では、素晴らしい日本の絵本の世界や過去 1300 年にも及ぶ物語文学の豊富な歴史に触れることができる。

また、赤羽末吉、茂田井武、瀬川康男、長新太、いわさきちひろ、いわむらかずお、という著名芸術家6名の芸術作品を特別展示。“日本の絵本の歴史:「絵因果経」から「14 ひきのシリーズ」まで”展示会は、5月24日から7月10日まで毎日、シンガポール国立図書館7階プロムナードで開催。

テーマ国関連カンファレンスセッション

5月25日から29日まで、日本の作家、翻訳者、イラストレーター、コンテンツ分野専門家20名による、読書推奨、日本の児童文学の歴史、子供向け図書の出版に関する経験等の発表会を開催。ちひろ美術館の竹迫祐子や日本人作家・イラストレーターである、いわむらかずお、等の著名人から直接話を聞くことができる。

また、5月27日午後6時30分から7時30分まで、児童文学関連レクチャーとして、さくまゆみこ、による「日本の児童図書:現在と将来」を開催。AFCC2016の詳細は、公式ウェブサイト(<http://afcc.com.sg/>)を御覧ください。また、フェスティバルに関する最新情報は、フェイスブック(<https://www.facebook.com/afccsingapore/>)やインスタグラム(<https://www.instagram.com/afccsg/>)にてAFCCをフォローして下さい。

###

アジア児童コンテンツ・フェスティバルについて

アジア児童コンテンツ・フェスティバル(AFCC)2016 は、アジアをテーマとした児童図書やコンテンツを称える場、そしてそれらの更なる創出、認識を深める場となるシンガポール国立図書開発評議会(NBDCS)の旗艦イベント。

2016 年、シンガポール国立図書館で行われる 5 日間のフェスティバルでは、セミナー、カンファレンス、パネルディスカッション、ワークショップ、マスタークラスを含む 140 の有料セッションや新刊発表、言語関連プログラムそして AFCC ブックフェアを含む多数の無料一般アクティビティを行う。

AFCC2016 では、スピーカーとして、シンガポールを含む世界 14 国からの 116 名の作家、イラストレーター、教育専門家、出版社、メディア専門家に注目。(14 国:シンガポール、日本、オーストラリア、マレーシア、香港、フィリピン、ニュージーランド、ドイツ、アイルランド、イラン、インドネシア、ガーナ、イングランド、アメリカ)

AFCC2016 のテーマ国は日本。カントリーパートナーは、国際子ども図書館と国立国会図書館。スペシャルパートナーは、ゲンティン・シンガポール。AFCC2016 のサポーターパートナーは、ちひろ美術館、日本書籍出版協会、女子美術大学。詳細は、www.afcc.com.sg を御参照下さい。

シンガポール国立図書開発評議会(NBDCS)について

シンガポール国立図書開発評議会(NBDCS)は、1968 年に設立された非営利慈善組織。アジア児童コンテンツ・フェスティバルや All In! Young Writers Festival 等、多様なプログラムやフェスティバルを通じて、口承文学、読書、文筆、出版を推奨促進。またシンガポール国内で出版された作品を対象に Singapore Literature Prize や Hedwig Anuar Children's Book Award、未出版の作品を対象とした Scholastic Asian Book Award や Scholastic Picture Book Award 等、毎年もしくは 2 年ごとに多数の賞を授与。同トレーニング部門である Academy of Literary Arts and Publishing (ALAP)も、通年で出版関連及び文芸専門コースやワークショップを実施。詳細は、www.bookcouncil.sg を御参照下さい。

ゲンティン・シンガポールについて

ゲンティン・シンガポールと同グループ会社は、30 年近くの間、オーストラリア、バハマ、マレーシア、フィリピン、シンガポール、英国におけるゲーミング及び統合型リゾートを先頭に立って開発。ゲンティン・シンガポールの代表的施設リゾート・ワールド・セントーサは、シンガポール初の統合型リゾートで、東南アジア最大級の本格的統合型デスティネーションリゾートの 1 つ。現在、韓国済州島にて統合型リゾート、リゾート・ワールド・チェジュを建設中。2017 年より段階的に開園。ゲンティン・シンガポールはシンガポール取引所メインボードに上場するトップ企業の 1 社。詳細は、www.gentingsingapore.com を御参照下さい。

<メディア連絡先>

リゾート・ワールド・セントーサ シンガポール広報代理

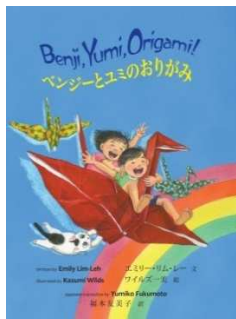
株式会社ブラップジャパンコミュニケーションサービス本部 7 部

担当:蔵持朝子/小林祐一/上高原由梨

E-mail: a-kuramochi@prap.co.jp / yu-kobayashi@prap.co.jp / y-kamitakahara@prap.co.jp

Tel: 03-4580-9105

添付資料A:「ベンジーとユミのおりがみ」と「テーブルがおかのモンスターの日」について
Benji, Yumi, Origami! 「ベンジーとユミのおりがみ」



おりがみの本を買ったベンジーは、おりがみで動物を折ってみますが、いくらやっても変な形になってしまいます。けれども隣に引越してきたユミは、変な形の動物でもちょっと工夫すれば、楽しく遊べることを知っていました。おりがみを通してシンガポールの男の子が日本から来た新しい友達と仲良くなる様子を描いた心温まる物語です。

文:エミリー・リム・レー / 絵:ワイルズー美 / 訳:福本友美子

■作者の紹介「エミリー・リム・レー」

シンガポールの作家。Prince Bear and Pauper Bear(「王子グマと乞食グマ」)をはじめ、幼い子ども向けの絵本の物語を25作以上書き、数々の賞を受賞している。物語には、周りの人々との違いに悩むめぐみの主人公たちが登場するが、痙攣性発作障害に苦しんだ自身の体験が基になっている。日本食が大好きで特にウニ、刺身、茶碗蒸しがお気に入り。

■イラストレーターの紹介「ワイルズー美」

東京都生まれ。絵本作家。女子美術大学絵画科を卒業し、現在は、アイオワ大学大学院でブックアートを学ぶ。絵を描いた絵本「ヒロシマの平和の木(サンドラ・ムーア文、未邦訳)」は、2015年にアメリカでジェレット・パージェス賞の異文化理解部門最優秀賞を受賞し、エバーグリーン賞の世界平和部門銀賞も受賞する。日本で出版された絵本には、「いつも楽しい」(アスラン書房)、「狐の振袖」(山本ふさこ 文、アスラン書房)がある。

■翻訳者の紹介「福本友美子(ふくもとゆみこ)」

公共図書館勤務の後、児童書の研究、翻訳などをする。「おさるのジョージ」シリーズ(岩波書店)、「としょかんライオン」、「ひみつだから!」(共に岩崎書店)、など訳書は160冊を越える。息子家族がシンガポール在住なので、度々訪れている。シンガポール動物園とホーカー(屋台)がお気に入り。

Monster Day at Tabletop Hill 「テーブルがおかのモンスターの日」



フォーキーはテーブルヶ丘に住む元気なフォークの男の子です。友達と、角砂糖公園で遊ぶのが大好きです。ある日、喧しい鐘の音が鳴り響き、フォーキー達は、慌てました。大変、その日は、モンスターの日だったのです! 友達は皆逃げ帰ってしまいました。でも好奇心一杯のフォーキーは、あまり怖がらず、新しい仲間を見つけることになったのです。

文:末吉暁子 / 絵:デイヴィッド・リユー / 訳:平野キャシー

■作家の紹介「末吉暁子」

大手出版社で児童図書の編集を担当後、作家としてデビュー。「星に帰った少女」で日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会の両新人賞を同時受賞。「ママの黄色い子象」で野間児童文芸賞受賞。NHK教育テレビの人形劇「ざわざわ森のがんこちゃん」の脚本や、子供の心をつかむ幼年童話、長編ファンタジーを執筆。※2016年5月28日逝去

■イラストレーターの紹介「デイヴィット・リユー」

高校で歴史を教えた後、独自の道を進み、テレビの子供番組でミニチュアの大道具やセットを制作し、ユニークなモノ作りをする「メイカー」となる。やがて子供の本の創作の世界に入り、「エリー・ベリー」シリーズ(エリザ・テオ 文)や「エイリアンのスクアーキー」シリーズ(メラニー・リー 文)の絵を描く。2014年には文と絵を手掛けたYA小説「イート街の悪夢—ヒョウ食堂物語」を出版した。シンガポール在住。

■翻訳者の紹介「平野キャシー」

カナダ生まれ。20歳の時に来日。文化人類学を専攻し、1983年に国際基督教大学を卒業。その後、日本の土木コンサルタント会社に翻訳者として入社。空いた時間に始めた児童書翻訳の仕事に魅了され、今でもこの分野への情熱は、衰えない。多くの翻訳を手掛け、「夏の庭」(湯本香樹実作)の英訳版、また2014年に国際アンデルセン賞を受賞した上橋菜穂子氏の「精霊の守り人」「闇の守り人」の英訳版は海外で賞を受賞。四国在住。

添付資料B: ゲンティン・シンガポール・アジア児童図書賞(ACBA)について

ACBA は、シンガポール国立図書開発評議会(NBDCS)が企画、ゲンティン・シンガポールが協賛。同賞は、アジア 50ヶ国*を対象に、アジア人作家による、アジアの出版社によって発行された翻訳を含む最優秀絵本を表彰することを目的とします。

この新たに立ち上げられたアジア最大の児童図書賞は、発行済み児童書を対象とした業界唯一の表彰の場。また作家、イラストレーター、翻訳者を同等に表彰する初めての試みであり、目的は各専門家同士のコラボレーションの更なる促進。また翻訳に重点を置く ACBA によって、アジアの児童図書がもっと多くの言語に翻訳、出版されることを促し、それによってこれらの児童図書がより多くのアジアの国々そして世界に届けばという願いが込められている。

応募期間は、今から 2017 年 1 月 6 日まで。また ACBA 初受賞者の表彰は、AFCC2017(2017 年 5 月)で行われます。最優秀作品には、各作家、イラストレーター、翻訳者に対し 1 万シンガポールドルずつ、つまり合計 3 万シンガポールドルが授与されます。

詳細は、<http://bookcouncil.sg/awards/afcc-asian-childrens-book-award> を御覧下さい。

*AFCC アジア児童図書賞(ACBA)エントリー対象国

アフガニスタン	インド	クウェート	パキスタン	台湾
アルメニア	インドネシア	キルギスタン	パレスチナ	タジキスタン
アゼルバイジャン	イラン	ラオス	パプアニューギニア	東ティモール
バーレーン	イラク	レバノン	フィリピン	タイ
バングラデシュ	イスラエル	マレーシア	カタール	トルコ
ブータン	日本	モルディブ	ロシア	トルクメニスタン
ブルネイ	ヨルダン	モンゴル	サウジアラビア	アラブ首長国連邦
カンボジア	カザフスタン	ミャンマー(ビルマ)	シンガポール	ウズベキスタン
中国	北朝鮮	ネパール	スリランカ	ベトナム
グルジア	韓国	オマーン	シリア	イエメン